【事業実績】

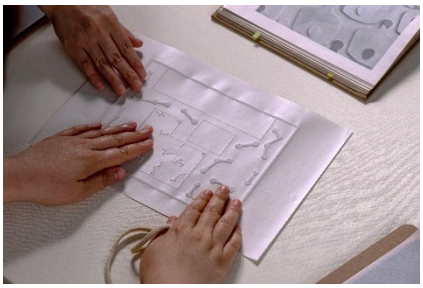
本事業では京都国立近代美術館を中核として、地域の大学、盲学校、作家、視覚障害のある当事者と協働しながら、視覚だけによらない、誰もが楽しめる美術鑑賞プログラム（ワークショップやツール）の開発に向け、調査研究、制作、成果公開を行った。今年度はとりわけ「平面絵画」（とくに抽象的な絵画作品）をみる・さわる・しゃべる・想像するなどの方法によって、その世界を深く味わうことをテーマとして取り組んだ。

本事業のウェブサイト　https://www.momak.go.jp/senses/
本事業についての紹介動画　https://youtu.be/Jh3_kwjZEnk

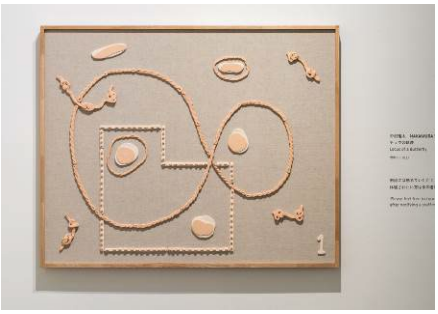
■「運動」「軌跡」をテーマに、抽象絵画を身体でたのしむ鑑賞プログラムの開発

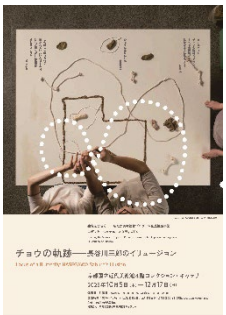
抽象絵画を視覚だけによらず味わう方法を探るため、チョウが飛ぶ軌跡やその運動を扱った**長谷川三郎《蝶の軌跡》**をテーマに、作家・視覚障害者・美術館が調査、検討会議、ワークショップを重ね、本作を身体感覚で味わう鑑賞プログラムを開発した。

作家が**手で触れる鑑賞ツールを14点制作**し、それらを含む**体験型のプログラムを美術館内で一般公開**した。



▲作家、視覚障害者、美術館スタッフによるフィールドワークや検討会議、作品鑑賞の様子





▲プロジェクトを踏まえて作家が制作した、手で触れる鑑賞ツール（全14点）　▲成果公開　ちらし（全4種）

（成果公開は2023年10月～12月にかけて実施。約2万人が来場した。）

▼オンラインでも成果を公開した（2023年10月～　現在も公開中）

ABCコレクション・データベースvol.3「長谷川三郎《蝶の軌跡》のイリュージョン」
https://www.momak.go.jp/senses/abc/hasegawa/

一般向けの鑑賞プログラム

鑑賞プログラムの開発に関わった作家、視覚障害のある方、デザイナー、専門家によるトークや体験型プログラムを実施した。（2回実施）

参加者の感想

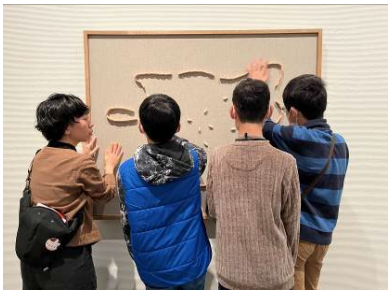
●何も見ない状態で触図を体験できたら、もっと探ろうとして深くなったのではないかと思いました。色んな人の見方、考え方が聞けておもしろかったです。

●触覚と視覚を同じくすることは難しいのだと思いましたが、アートは自由で、イリュージョン、イメージは妄想でも良いと。入口でモードを変えるということも、これから、アートを展示するヒントにもなり、いつも勉強なんだなあと良い体験になりました。

京都府立盲学校と連携した「抽象作品を味わう」鑑賞・制作ワークショップ

盲学校の中学生を対象に、抽象的な作品を深く味わうことをねらいとしたワークショップを行った。

まず、厚紙や紐などで作ったパーツを手でふれて、感じた印象や気持ちなどを意見交換した。次に、陶器でできた、手で触れる鑑賞ツールをさわりながら美術館スタッフと対話鑑賞を行い、最後に、抽象的な形を組み合わせて作品を制作した。



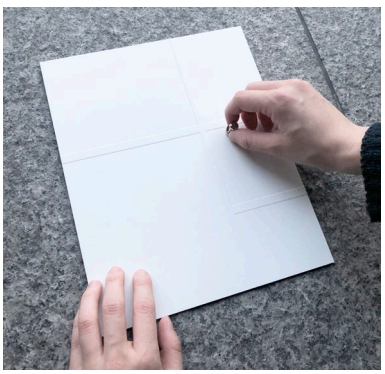
参加した生徒の感想

●普段、作品は視覚で作品を鑑賞するので、触って作品の良さを感じることの大切さを学びました。また、後半の作品作りではさまざまな形を使って表現する楽しさや難しさを学びました。

●凸凹のあるもので手の感覚も使い、どんなことを理由に描かれたのかを予想することが楽しかったです。美術館のイメージが目でしか楽しめないと思っていたので楽しかったです。

■「さわる図」の制作と配布・・・抽象的な絵画を〈手ざわり〉と〈磁力〉で味わう

盲学校教育において図工・美術の点字教科書が無い現状等を踏まえ、一人でも多くの視覚障害のある方に美術作品に親しんでいただくため、所蔵作品をさわる図と文章で紹介する「さわるコレクション」を制作した。

図の加工にあたり、エンボス（浮き出し）加工で輪郭を表すことに加え、色合いの違いを磁力の強弱で表現し、磁石を使って図をさわることによって、絵をより深く味わうことができるツールを目指した。

2作品、各1000部発行し、全国の盲学校・ライトハウス・点字図書館や美術館等へ配布した。